

クラスの女子が裸を見せつけてきた プールの着替え

6年生の夏、プールの授業前後の着替え時間は、教室はいつも騒がしかった。

「早く着替えなさい！ プール始まるよ！」

担任の山田先生の声が教室に響き、みんな笑い合いながら服を脱ぎ始めた。カーテンを閉め、机を教室の隅に寄せてスペースを作ると、男子も女子も一斉に動き出す。タオルで体を隠すなんて発想は、うちのクラスにはなかった。パンツ一枚になって「見ないでねー！」と笑う女子もいたけど、すぐにそのパンツすら脱いでしまう。

リカはクラスのムードメーカーで、最近ブラジャーを着け始めたことを自慢げに見せびらかしていた。「ほら、たけしくん、見て！ 大人っぽいでしょ？」彼女はニヤニヤしながら

ら、シャツを脱いで白いブラをチラッと見せ、すぐにそれを外して素肌をさらけ出した。彼女のおっぱいはまだ小さく、ほんのり膨らんだ胸が、夏の光の中で白く輝いて見えた。乳首は薄いピンク色で、どこか無垢な印象だった。俺はドキッとして、つい視線を逸らしたけど、リカはそんな反応を見て楽しそうに笑った。「ねえ、たけしくん、顔赤いよ！ おっぱい見てドキドキしてるんでしょ？」その言葉に、教室にいた男子たちがドッと笑い、女子たちもからかうように声を上げた。